

2024年度「あいち食育いきいきプラン2025」の主要な取組

1 食を通じて健康な体をつくるための取組



- ・栄養バランスの良い朝食摂取に向けた取組【保健体育課】・・・・・・・・・・ 1
- ・野菜の摂取量向上の取組【健康対策課】・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2 食を通じて豊かな心を育むための取組



- ・農林漁業体験学習推進支援への取組【保健体育課】・・・・・・・・・・ 3
- ・農林水産業への理解と地産地消の推進への取組【農政課】・・・・・・・・ 4

3 食を通じて環境に優しい暮らしを築くための取組



- ・学校給食における地域の産物の活用に向けた取組【保健体育課】・・・・・・・・ 5
- ・地産地消の推進に向けた取組【食育消費流通課】・・・・・・・・・・ 6

4 食育を支えるための取組



- ・食育推進ボランティアの育成と活動の充実に向けた取組【食育消費流通課】・・・ 7

※1 プランの期間である2021年度から2025年度において、上記の事例を「主要な取組事例」として、継続して毎年報告します。

※2 今後の状況により、主要な取組として新たに紹介する取組がありましたら、追加していきますので、食育消費流通課までお知らせください。



栄養バランスの良い朝食摂取に向けた取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2020)	現状			目標 (2025)
		2021	2022	2023	
朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合	93.2%	92.6%	90.7%	91.3%	98%以上
朝食に野菜を食べている小中学生の割合	55.9%	61.9%	61.5%	60.7%	80%以上

1 現状と課題

2023年の朝食を毎日食べる習慣がある小中学生の割合は、91.3%と前年から0.6ポイント上昇した。目標達成を目指し、朝食の重要性を周知する、「早寝・早起き・朝ごはん」キャンペーンのさらなる推進等、対策を強める必要がある。

朝食に野菜を食べている小中学生の割合は、基準年より増加しているものの、ここ2年は微減である。野菜の値段の高騰等課題も多いが、バランスの良い食生活の大切さについて、今後も保護者へ働きかけられるよう、研修会や大会で呼びかける。



朝食に野菜を食べている小中学生の割合

2 主な取組

(1) 2023年度取組実績とその「SHIN化」

「あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテスト」については、コロナ禍が一段落し規制のない開催ができ、7,464点の応募があった。また、バランスの良い朝食に関する研究事例の紹介等を、学校関係者、栄養教諭等に向けた各種研修会で行った。

【SHIN化の内容】〈進化〉

給食試食会等に配布する食育資料や朝ごはん啓発リーフレットの提供時期、「早寝・早起き・朝ごはん」キャンペーンの周知依頼送付時期を早め、学校の事情に合わせた活用ができるようにした。

(2) 2024年度以降の取組(予定)

- あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテストの実施
- 保護者向け食育資料の提供、「早寝・早起き・朝ごはん」キャンペーンの実施
- 学校関係者向け、食育に関する各種研修会での事例紹介



朝ごはんコンテスト最優秀作
『今日も元気に「いざ、出陣じゃ！」朝ごはん』

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





野菜の摂取量向上の取組

保健医療局健康医務部健康対策課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2020)	現状			目標 (2025)
		2021	2022	2023	
毎日野菜を3回以上食べている成人の割合	17.7%	17.5%	データなし	17.3%	20%以上



1 現状と課題

毎日野菜を3回以上食べている成人の割合は、2021年度から2023年度で増加していない。朝食を欠食しない割合の増加とともに、野菜の摂取機会を増やすことで野菜摂取量の増加を図る必要がある。

2 主な取組

(1) 2023年度の取組実績とその「SHIN化」

県民が野菜摂取量の増加及びバランスのよい食事を選択できる環境づくりを産学官連携によりモデル的に取り組んだ（県内スーパーで野菜摂取量向上メニューの食材セットを販売 1店舗 246セット）。

また、「2022年愛知県生活習慣関連調査」では、野菜料理を食べない理由は用意する手間がかかると回答した人が多く、外食等利用頻度と野菜摂取頻度に関連があったことから、手軽な野菜摂取や外食等での野菜料理の選択方法を提案するぬりえやポスターを飲食提供施設等へ配布した。

【SHIN化の内容】〈潔化〉

モデル取組及び調査結果の活用により、野菜摂取量の向上につながる具体的な取組ができた。



モデル取組



ぬりえ



ポスター

(2) 2024年度以降の取組（予定）

新たに「食生活改善支援事業」を実施する。子育て世代・働く世代を対象に、手軽な野菜摂取の働きかけを行うとともに、外食等においても野菜料理を選択できる環境づくりを重点的に取り組む。8月31日から1か月間を取組強化期間とした保育園等での普及啓発の実施、事業所社員食堂等の飲食提供施設に対する自然に健康になれる食環境づくりの支援を行う。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図

○普及啓発 キャンペーンの実施
○食環境整備 食育推進協力店の強化
自然にバランスの良い食事を選択できる食環境づくり支援
○解析 栄養・食生活課題の解析

•健康に配慮したメニューに取り組む飲食提供施設等の増加
•県民の意識の変化

•朝食を欠食しない若者割合増加
•**野菜摂取量向上**
•適正体重の維持

健康寿命延伸



農林漁業体験学習推進支援への取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2019)	現状				目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	
農林漁業体験学習に取り組む小学校の割合	77.8%	68.5%	69.8%	71.1%	73.0%	80%以上

1 現状と課題

2023年の農林漁業体験に取り組む小学校の割合は、73.0%と、コロナ禍の影響を受け大きく落ち込んだ後、回復傾向にある。ただ目標には遠い現状があるので、地元の農家やJAなどを呼んで行う農業体験学習等、各方面の協力を得て情報発信、情報提供を今後も積極的に行っていく。



バケツでの米作りにチャレンジ

2 主な取組

(1) 2023年度の取組実績とその「SHIN化」

学校関係者、栄養教諭等向けの各種研修会で、研究校の食育（農林漁業体験を含む）に関する事例発表を行った。

食育消費流通課作成の小学校における農林漁業体験学習の啓発チラシ「授業、クラブ・課外活動などに『農林漁業体験学習』を積極的に取り入れてください!」、「食育推進ボランティアに食育活動を依頼してみませんか!」を小学校等に送付した。また、水産課より、パンフレット「愛知県の水産業」、下敷き「愛知県の主要な水産物」を、小学校等の5年生に配布した。水産業への理解を深めるとともに、漁業者による学校向け体験活動の情報提供を行っている。

【SHIN化の内容】〈伸化〉

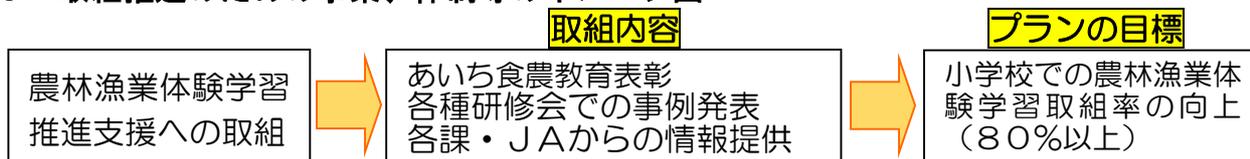
愛知県教育委員会とJAグループ愛知との相互連携に関する協定締結に基づく、「第1回あいち食農教育表彰」がJAグループ愛知主催で行われた。各学校で行われている農業体験について、模範的な取組がテレビ、新聞等で報道されることで、農業体験への興味・関心が高まり、先進事例として周知が図られた。

一方で、「美浜を味わう学校給食の日」や「みよし市の郷土料理に親しむ」の設定等、愛知を食べる学校給食の日を機に、各市町村独自の地産地消の推進も行われている。

(2) 2024年度以降の取組（予定）

- 「あいち食農教育表彰」を通しての農業体験の拡充
 - ※「食と農で未来をつくる!!」をキャッチフレーズとした本取組は、第1回の応募数は22件であった。愛知県教育委員会からの第2回の応募依頼発送に合わせて、応募の増加の呼びかけとともに、農業体験の拡充を呼びかける。
- 各種研修会における研究校の農林漁業体験に関する事例発表
- 各課（食育消費流通課、水産課等）の体験学習に関する情報提供

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





農林水産業への理解と地産地消の推進への取組

農業水産局農政部農政課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2019)	現状				目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	
県等が実施するイベントや農林漁業体験の参加者数	14.6万人	13.4万人	13.6万人	15.0万人	16.9*万人	18.5万人以上

※2023年度は推定値（とりまとめ中）

1 現状と課題

県民に農林水産業や農山漁村への理解を深めてもらうための手段の一つとして、花と緑のイベントや、試験場公開デー、出前授業など各種イベントや体験活動等を実施している。

新型コロナの感染症法上の位置付けが5類感染症になったことから、これまで制限してきたイベントの回数や内容をコロナ前に段階的に戻しつつ、県等が実施する出前授業や各種イベントへより多くの県民が参加できるよう、イベント数の増加や内容の充実を図ることが必要である。

2 主な取組

(1) 2023年度の取組実績とその「SHIN化」

県等が実施するイベントや農林漁業体験に 16.9*万人が参加した。

ア 県等が実施するイベントや農林漁業体験の参加者数 9.2万人

農業総合試験場公開デー、花と緑のイベント、森林・林業技術センター公開デー、小中学生対象の森林づくりの体験活動、森と緑づくり体感ツアー、水産試験場公開デー、畜産フェスタ、畜産加工実習、出前授業等（水産・農業農村整備）

イ 県が把握する多様な主体によるイベント等への参加者数 7.6*万人

○子供世代向け

小中学生を対象とした農林漁業体験、漁業者による出前授業への参加

○大人世代向け

市民農園・農業体験農園・農業塾での農業体験、県民を対象とした森林・林業体験

【SHIN化の内容】〈深化〉

新型コロナが5類感染症になったことでイベントの規模を段階的にコロナ前に戻しつつあり、計画を下回る結果となったが、参加者数は増加傾向である。

今後はより農林水産業や農山漁村に興味を持ってもらうために既存イベントの活用やイベント内容の見直しを行い、継続した啓発による県民の理解促進を行う。

(2) 2024年度以降の取組（予定）

県民の本県農林水産業への関わりを深めるため、引き続きイベント等を開催していく。



東三河農業研究所公開デー



水産試験場公開デー

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図

【農林水産業に係るイベント等の開催】

○県が実施するイベント等

○市町村・関係団体等が実施するイベント等

農林漁業を応援・
体験し参加する
機会の提供

農林水産業や農山
漁村への理解を深
める県民の増加



学校給食における地域の産物の活用に向けた取組

教育委員会事務局教育部保健体育課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

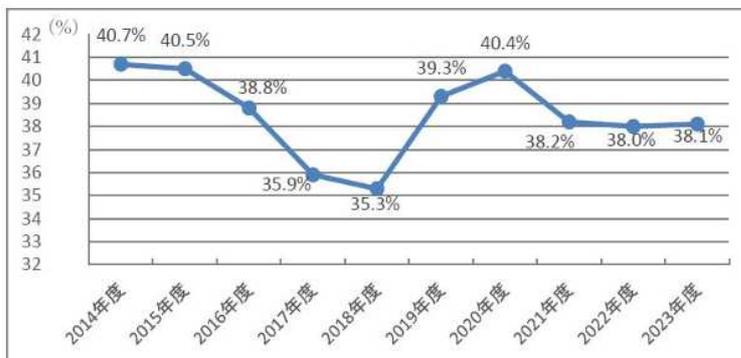
項目	基準年	現状				目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	
全食品数に占める県産食品数の割合(%)	40.4% (2020)	—	38.2%	38.0%	38.1%	45%以上
年間に使用した県産食品の種類	55 (2019)	57	58	59	—	60種類以上

1 現状と課題

全食品数に占める県産食品数の割合は、2021年から横ばいが続いている。価格高騰や天候不順等が原因であり、今後も続く予想される。

一方で、年間に使用した県産食品の種類は、59種類と増加した。毎年公表している調査結果を参考に、各市町村で新たに追加していると報告を受けている。

今後も、地域の産物を活用することが、児童・生徒の豊かな心を育み、SDGsにもつながる環境にやさしい取組となることを、関係機関や各学校へ働きかけていく。



全食品数に占める県産食品数の割合

2 主な取組

(1) 2023年度の取組実績とその「SHIN化」

全市町村において、地場産物を活用した学校給食を提供する「愛知を食べる学校給食の日」を年3回実施した。また、学校給食県産農産物使用促進に関する各市町村の担当との意見交換会を、食育消費流通課とともに毎年行っている。この他、学校給食における地場産物の活用に関する調査を実施し、地場産物を使用するうえで、①使用量が確保できない85.2%、②価格が高い68.5%、③規格サイズが合わない63.0%等、地場産物の供給面に課題があることが明らかになっている。

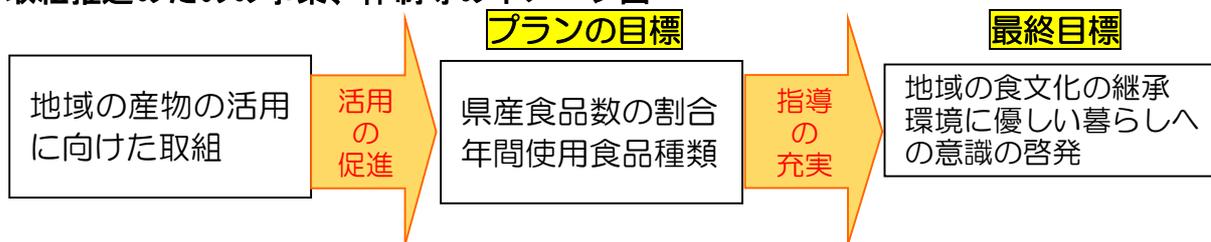
【SHIN化の内容】〈深化〉

「愛知を食べる学校給食の日」の取組に合わせて、地元の有機食材を使用した献立を取り上げ周知することで、地産地消への関心がより高まるようにした。

(2) 2024年度以降の取組（予定）

- 「愛知を食べる学校給食の日」の実施（年3回：6月、秋、1月）
- 学校給食県産農産物使用促進に関する意見交換会等を、食育消費流通課とともに実施
- 「学校給食における地場産物の活用に関する調査」の実施（11月）

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図





地産地消の推進に向けた取組

農業水産局農政部食育消費流通課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年	現状			目標 (2025)
	2020	2021	2022	2023	
県産農林水産物を優先して購入する 県民の割合	15.4%	13.3%	—	18.6%	25%以上
「いいともあいち運動」を知っている 人の割合	22.7%	24.2%	—	22.2%	28%以上

1 現状と課題

2023 年県政世論調査の結果では、「県産農林水産物を優先して購入する県民の割合」は 18.6%と 2021 年の 13.3%を上回った。また、「『いいともあいち運動』を知っている人の割合」は 22.2%で、2021 年の 24.2%を下回った。

2022 年度から、地産地消が SDGs に貢献することを前面に押し出し、「地産地消あいち SDGs 推進キャンペーン」を行っているが、地産地消の実践を促すための取組を一層推進する必要がある。

2 主な取組

(1) 2023 年度の実績とその「SHIN 化」

地産地消と SDGs の関連性を分かりやすく伝えるとともに、県産農林水産物を PR する動画を作成し、SNS 等を活用して発信した。

県産農林水産物を積極的に扱う「いいともあいち推進店」を巡る「地産地消あいちデジタルスタンプラリー」を 9 月から 2 月まで県内 541 店舗で実施し、延べ 18,518 人の参加を得て、県産農林水産物を PR し、見て、触れて、食べる機会を創出した。

【SHIN 化の内容】〈新化〉

地産地消は SDGs の達成に貢献できるという観点を新たに加え、県民に地産地消の理解促進と実践を促した。

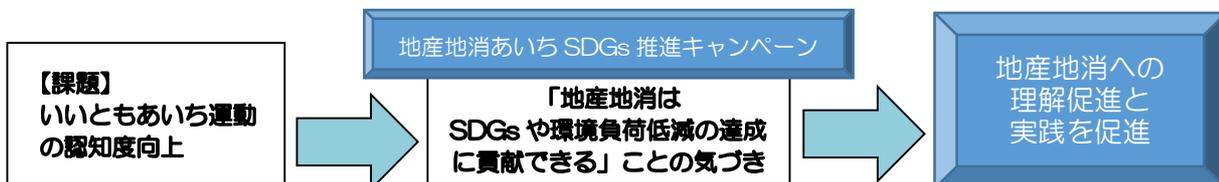
(2) 2024 年度以降の取組（予定）

いいともあいち運動の認知度向上を図り、SDGs を食の面から推進するため、県民が普段の生活の中で気軽に地産地消に取り組めるよう、「地産地消あいち SDGs 推進キャンペーン」をより一層「進化」させていく。

2024 年度は、若い世代に地産地消や SDGs への理解を深めてもらうため、デジタルプロモーション等の取組を行う。また、地産地消の実践をより促すため、デジタルスタンプラリーの取組を拡大し、より多くの県民が県産農林水産物に接し、継続的に購入できる機会を創出する。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図

いいともあいち魅力向上推進事業 うち SDGs 貢献地産地消推進事業





食育推進ボランティアの育成と活動の充実に向けた取組

農業水産局農政部食育消費流通課

あいち食育いきいきプラン 2025 の目標

項目	基準年 (2019)	現状				目標 (2025)
		2020	2021	2022	2023	
食育推進ボランティアから食育を学んだ人数	11.1 万人	1.3 万人	2.7 万人	5.7 万人	4.5 万人	12 万人以上 / 年間
食育推進ボランティアと学校・企業等との連携回数	227 回	138 回	287 回	289 回	352 回	240 回以上

1 現状と課題

「愛知県食育推進ボランティア（以下「食育ボランティア」という）」は、県民が健全な食生活を実践できるよう、県内各地域で様々な食育活動を行っており、2024年3月末時点では、993名が登録している。

2023年度は、前年度と比較して、食育ボランティアから学んだ人数が4.5万人と減少した。コロナ禍を経て、少人数開催など活動が縮小している傾向にある。一方で、食育ボランティアと学校・企業等の連携回数については、352回と大幅な増加が見られ、活動の充実が図られている。

2 主な取組

(1) 2023年度の取組実績とその「SHIN化」

愛知県の伝統野菜や食文化をテーマにしたシンポジウムや、栄養バランスのとれた和食の調理講習会を行った。また、より多くの人に情報を届けるために、その様子をアーカイブ配信した。さらに、食育ボランティアの知識及び技術の向上を目指した研修交流会を実施した。

- 「あいち食育いきいきシンポジウム」(55名)
- 「栄養バランスのとれた和食の調理講習会」(31名)
- 「地域食育推進ボランティア研修交流会」(7地域：218名)

【SHIN化の内容】〈伸化〉

2022年度に開催した「第17回食育推進全国大会inあいち」の理念を継承し、団体や企業等と連携し、シンポジウムや研修会を実施した。



シンポジウムの様子

(2) 2024年度の取組（予定）

「環境」をテーマに、食生活が環境に与える影響について学ぶとともに、より環境に優しい食生活の実践について考える内容のシンポジウムと調理講習会を開催する。引き続き、シンポジウム等のアーカイブ配信を行い、より多くの人に情報を届けることができるようにする。

3 取組推進のための事業、体制等のイメージ図

